

# 電線メーカーの自動車戦略

## 阿部茂信・古河電気工業常務

日刊産業新聞 紙齢  
**20000**号  
特別企画



古河電気工業は「100年に一度の大変革期」を迎える自動車分野に対し、素材技術を生かした製品を展開する。本年4月には自動車部品事業部門を社長直下の組織とし、業界の変化に対してスピード感をもって対応ができる体制とした。そこで、同社の阿部茂信・自動車部品事業部門長（執行役員常務）に足元の事業環境と今後の戦略を聞いた。

——自動車部品事業部門の足元の事業環境を。 阿部 自動車部品事業部門は日本、欧米、中国以外のアジア市場が新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。中国市場は年明けから昨年度比で15%減を見込む。4-6月は回復しており、4-12月にかけて取り戻せる。日本市場は年明けから昨年度比で15%増を見込む。北米市場は年末には昨年度の

90-95%程度まで回復している。AS EAN（東南アジア諸国連合）市場に関しては、南米やアフリカへの自動車の輸出が多いタイやインドネシアの動きが鈍く、昨年度並提案が必要となるだろう。また、コネクテッドとなる自動車は、自動車の整備も必要となる。エネルギー、情報通信、モビリティの当社各関連部門で一体となった取り組みを進める。——今後、ワイヤハネスはどう変わる。 「EV（電気自動車）では、高圧ハーネスが搭載され、その分現在ケーブルに搭載されている低圧ハーネスが徐々に減少していくが、軽量化の観点から銅やアルミ合金を使用した極細線をはじめアルミの軽い素材、ワイヤレス通信の活用が期待される。電力供給や通信など用途に合わせて使い分けられるので、このたび、コロナ禍の影響を受け、フィリピンのワイヤハネス拠点で生産の一部を、このたび、フィリピンでフルパワー・オートモーティブ・システム・リマ・フィリピンを拡張した際、非常時に生産バックアップできる戦略スペースを確保した。今回、新たに設立するベトナム拠点においても、戦略スペースを設置する。フィリピン、ベトナムの2国間で相互にバックアップできる体制とする。——ベトナムと中国で銅電線の能力を増強するが。 「22年度にフルパワー・オートモーティブ・システム・ベトナムと中国のフルパワー・オートモーティブ・パートナー・カンパニーを増設する。採用車種が増えていくことに加え、自動車の高機能化に伴いワイヤハネスの搭載数は増えている。これまでは、一部のワイヤハネスに使用される銅電線は外注品で賄っていた。これを内製化することが狙いだ。シェアを伸ばすという意味合いでの投資ではない。——自動車部品事業を社長直下の組織としたが。 「自動車業界からは「自動車業界からは」に展開できる事業部門としていきたい」（玉光 宏）

## 素材技術を生かした製品展開

みに回復するのは来年の夏ごろとなるのではないかと見ている。日本市場は年明けから昨年度比で15%増を見込む。北米市場は年末には昨年度の90-95%程度まで回復している。AS EAN（東南アジア諸国連合）市場に関しては、南米やアフリカへの自動車の輸出が多いタイやインドネシアの動きが鈍く、昨年度並提案が必要となるだろう。また、コネクテッドとなる自動車は、自動車の整備も必要となる。エネルギー、情報通信、モビリティの当社各関連部門で一体となった取り組みを進める。——今後、ワイヤハネスはどう変わる。 「EV（電気自動車）では、高圧ハーネスが搭載され、その分現在ケーブルに搭載されている低圧ハーネスが徐々に減少していくが、軽量化の観点から銅やアルミ合金を使用した極細線をはじめアルミの軽い素材、ワイヤレス通信の活用が期待される。電力供給や通信など用途に合わせて使い分けられるので、このたび、コロナ禍の影響を受け、フィリピンのワイヤハネス拠点で生産の一部を、このたび、フィリピンでフルパワー・オートモーティブ・システム・リマ・フィリピンを拡張した際、非常時に生産バックアップできる戦略スペースを確保した。今回、新たに設立するベトナム拠点においても、戦略スペースを設置する。フィリピン、ベトナムの2国間で相互にバックアップできる体制とする。——ベトナムと中国で銅電線の能力を増強するが。 「22年度にフルパワー・オートモーティブ・システム・ベトナムと中国のフルパワー・オートモーティブ・パートナー・カンパニーを増設する。採用車種が増えていくことに加え、自動車の高機能化に伴いワイヤハネスの搭載数は増えている。これまでは、一部のワイヤハネスに使用される銅電線は外注品で賄っていた。これを内製化することが狙いだ。シェアを伸ばすという意味合いでの投資ではない。——自動車部品事業を社長直下の組織としたが。 「自動車業界からは」に展開できる事業部門としていきたい」（玉光 宏）